

基本方針1 「確かな学力」を身に付ける教育を推進します。

1-①

小学校児童支援推進事業【教職員課】



事業概要

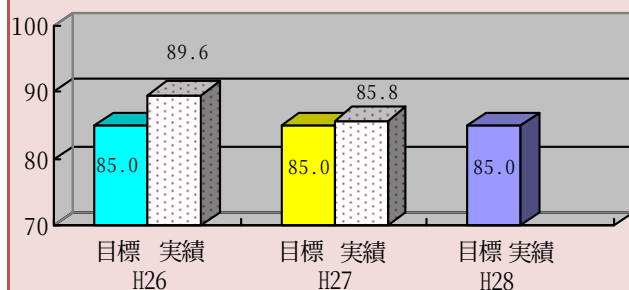
児童指導担当教員等がいじめや問題行動、不登校などに対して、きめ細かな対応ができるように、小学校に非常勤講師を派遣します。

平成27年度実績

派遣人数 17人

成果指標

アンケートによる児童の
学習意欲・生活態度の向上の割合(%)



成果と課題・今後の取組等

非常勤講師の派遣により、児童指導担当教員等の授業時数を軽減することで、いじめや問題行動、不登校などに対してきめ細かな対応ができました。

今後も、落ち着いた学校生活や学力の向上を図るため、事業を継続していきます。

委員からの意見

・児童指導に関わる問題が起きた場合、学校によっては児童指導担当や教育相談コーディネーターが学級担任をしていることがあり、対応できる人数が非常に少なくなってしまう。そうした問題を事前に察知したり、問題発生後速やかに対応したりするためには、児童指導担当や教育相談コーディネーターが担任から外れ、自由に動けることが重要です。そうしたことから、本事業は児童に関わる問題が大きくなる前に速やかに解決する上で重要な事業であり、規模の小さな学校に特に必要な事業と考えます。

・小学校低学年の児童が、基本的な生活習慣や基礎学力を身に付け、一人一人が生き生きとした学校生活を送ることができるようにするためには、十分な配慮ときめ細かな指導が必要です。そのためにはこの事業は大変有効であり、今後も是非継続強化を図ってほしいと思います。クラス担任以外に、児童数の多い学校や課題の多い学校の保健室養護教諭への支援も事業対象となるように配慮を希望します。

・児童・生徒一人一人に光を当て、一人を大切に育てる環境を整えることは素晴らしいことだと思います。きめ細かな教育指導の体制ができるように今後も継続してほしいと思います。

・非常勤講師が派遣されることで、児童指導担当や教育相談コーディネーターの児童と向き合う時間が確保され、以前には難しいとされた全児童に対してきめ細かな対応ができるようになっていきます。今後も継続を望みます。



事業概要

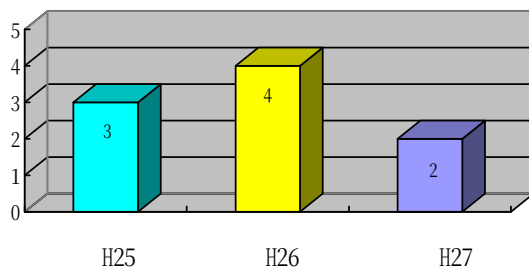
学力向上と、不登校や暴力行為などの問題行動の減少を目指し、中学校1年生の35人学級編成を推進するため、非常勤講師を派遣します。

平成27年度実績

派遣人数 2人

過去3年の実績

中学校への非常勤講師の派遣人数(人)



成果と課題・今後の取組等

非常勤講師の派遣により、中学校1年生の35人学級編成の体制が整い、きめ細かな教科指導と、問題行動の早期発見や対応をすることができました。

今後も、落ち着いた学校生活や学力の向上を図るため、事業を継続していきます。

委員からの意見

- ・国の施策では小学校2年生まで実施している35人以下の学級編成を、市独自で小学校3年生まで実施し、更に中学校にも試みを実施しており、きめ細かな指導に著しい成果があります。他市より先進している事業だと思います。現在モデル校が2校ということですが、学校数を増やすことができるか成果を検証する中で、是非1校ずつ増えていくことができるように期待します。
- ・非常勤講師が派遣されることで、質の高い教科指導とよりきめ細かな対応ができるようになっていきます。中学校卒業後の個々に応じた進路を決定する上でも価値が高いと思いますので、学校現場に必要な人材の配置を希望します。

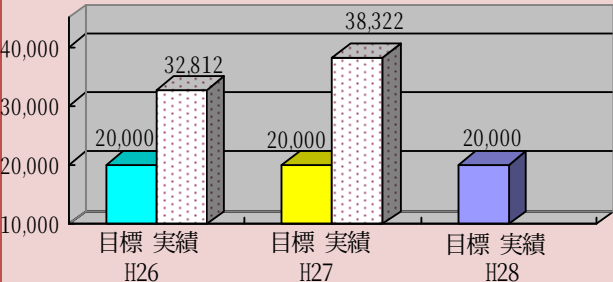
1-③④ 元気アップスクール推進事業交付金(小学校・中学校)【学校教育課】

	事業概要
	市立小・中学校が地域との^{きずな}絆を大切にした特色ある学校づくりを推進するため、各学校からの申請に基づき、必要な経費を交付します。
	平成27年度実績

交付校 市立小・中学校全 36 校

ボランティアなど来校者数 38,322 人

(小学校 31,687 人、中学校 6,635 人)

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
地域人材や講師などの来校者数(人) (小・中学校合計)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>20,000</td><td>32,812</td></tr><tr><td>H27</td><td>20,000</td><td>32,812</td></tr><tr><td>H28</td><td>20,000</td><td>38,322</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H26	20,000	32,812	H27	20,000	32,812	H28	20,000	38,322	地域の協力を得て、各学校の特色ある事業展開を推進することができました。 また、学習支援や読書のボランティア等の活動を通して、児童・生徒の学習意欲の向上を図ることができました。今後も、特色ある学校づくりのために事業を実施します。
年度	目標	実績											
H26	20,000	32,812											
H27	20,000	32,812											
H28	20,000	38,322											

委員からの意見

- ・小・中学校の特色ある事業が展開できる財源確保は今後も継続を望みます。また、各学校の事業報告書を一読できる機会をもらいたいと思います。
- ・この事業は、日本一の学校支援の言葉以外ありません。他の自治体では聞いたことがありません。全ての学校の全ての児童・生徒を対象に学校の申請に基づいて必要な経費が交付されます。学校では、大切に有効に活用しており、地域や専門家の方の協力支援をいただきながら通常ではかなわない特色ある学校の事業展開ができます。例えば、卒業生を招く「ようこそ先輩」や「おもしろ科学実験」、「縄跳び世界一の先生」をお呼びしたり、「植物学者の先生は自然を楽しむ方法」を教えてくださいました。市民の方に「教育支援日本一」の素晴らしい事業をよりPRしたいと思うほどの最高にありがたい事業です。市の支援と教育委員会と学校の協力により、児童・生徒に非常に大きな成果を上げています。
- ・地域との絆を大切にした特色ある学校づくりに資する活動を、積極的に進めることが可能となる大切な事業です。今後とも学校が使いやすい制度を目指してほしいです。

	事業概要
	市立小・中学校がより良い教育活動の実践や特色ある学校づくりを推進するための研究活動を行うために、交付金を交付します。
	平成27年度実績
交付校 市立小・中学校全 36 校	

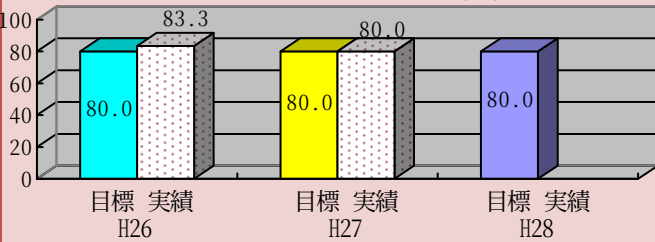
成果と課題・今後の取組等

各学校の特色ある事業展開や教員の資質向上に資する研究活動を推進することができました。今後も、地域との連携・信頼関係を基盤とした各学校の教育の質の向上のため、事業を推進します。

委員からの意見

- ・教職員の研究研修活動は「確かな学力を身に付ける教育」の基本であり、この事業の更なる推進を希望するとともに、各学校の報告書を一読できる機会をもらいたいと思います。
- ・研究活動の推進のため、全ての学校に対する交付金の支援は各学校の教育の質の向上に寄与しています。授業研究の講師を招いたり、教材の補助に充てたりと教員の力量アップは分かる授業、楽しい学校、そして児童・生徒の学力向上にそのまま還元されています。今後も継続強化を希望します。
- ・教職員にとって、研修及び自己研鑽は欠かせません。特に、教育課題が非常に多岐にわたる現代では、教職員のたゆまない努力が児童・生徒の幸せに直接つながるといっても過言ではありません。学校現場では、教師が自己研鑽を行いやすい環境をつくっていただいているこの事業に感謝しています。

	事業概要
	義務教育 9 年間を見通した教育課程の編成と指導の工夫改善のため、中学校区での研修を行います。また、児童の中学校に対する不安を和らげるために、教員が市立小・中学校での授業を兼務することを円滑に行うため、中学校に非常勤講師を派遣します。
	平成 27 年度実績
全中学校区において小中合同研修会を実施 市立依知中学校、睦合中学校への非常勤講師配置	

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
研究指定校への年度末アンケートによる 小中一貫教育の充実度(%)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>80.0</td><td>83.3</td></tr><tr><td>H27</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr><tr><td>H28</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H26	80.0	83.3	H27	80.0	80.0	H28	80.0	80.0	各中学校区で実施した研修会では、児童・生徒の学力向上に向け、授業改善に向けた内容や効果的な小中連携に関する内容等、地域や学校の実態に即したテーマを設定し実施することができました。 今後は、目指す子ども像の共有等を含め、小中一貫教育と呼ぶに相応しい取組を進めるために事業を推進します。
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H26	80.0	83.3											
H27	80.0	80.0											
H28	80.0	80.0											

委員からの意見

- ・小中一貫教育の推進を目指して中学校 2 校に非常勤講師が配置されていますが、学校を順に交代するか、可能なら配置校を 1 校ずつでも増やすことができれば良いと思いますが、予算のことでもありますので継続できるように望みます。小・中学校の交流などは教員はもちろん児童・生徒にとっても学ぶことが多い大変意義のある事業です。
- ・各中学校区で行う研修会は、近年における小中連携の必要性の高まりから、地域や学校の実態に即したテーマを設定して、大きな成果を上げています。また、小・中学校の教職員が異校種間で行き来することは、よりお互いを理解するために効果は絶大です。6 年生が中学校に入学する時の中一ギャップを和らげることにもつながります。今後は、非常勤講師の配置の拡大を検討してほしいと思います。



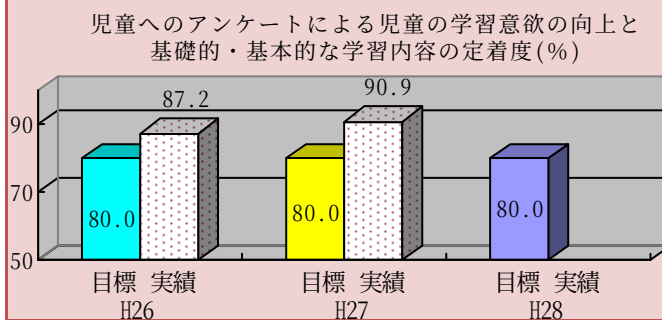
事業概要

放課後の教室などを利用し、市立小学校3年生の児童に国語及び算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、復習を中心とした個別の学習指導を行うあつぎ元気塾講師を配置します。

平成27年度実績

実施校 市立小学校 22 校
受講児童数 866 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

学習習慣の確立や基礎的・基本的な内容の定着が図られました。

今後も、基礎的・基本的な学力の定着を図るため、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな学習指導を実施します。

委員からの意見

・実際に担当している教職員や保護者の方に何うと、例えば、要保護・準要保護の児童は本人ではなく家庭の都合で塾に行きたくとも行くことができないということでした。そのような家庭においてこの事業は大変ありがたく成果が上がっていることを実感しています。できるならば小学3年生だけではなく、もう少し学年を広げ、もっと学びたいという児童・生徒に応えてほしいと思います。実績値は90.9%と高く、この事業の継続強化を望みます。

・学力に大きく差が出る中学年に、補充学習を行うことはとても意義深いものです。参加している児童の中には、保護者の意向による児童もありますが、多くの児童が主体的に学習に臨めるようになっています。対象学年を拡大できるものであれば、4年生にも広げてほしいと思います。



事業概要

充実した教育活動を推進するため、市立小学校に学カステップアップ支援員（小学校）を派遣し、学級担任の補助及び学習支援を行います。

また、中学校1年生では、数学と英語の授業を側面から支援する学カステップアップ支援員（中学校）を派遣し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を通して、学ぶ意欲を育てるとともに、学力の向上を図ります。

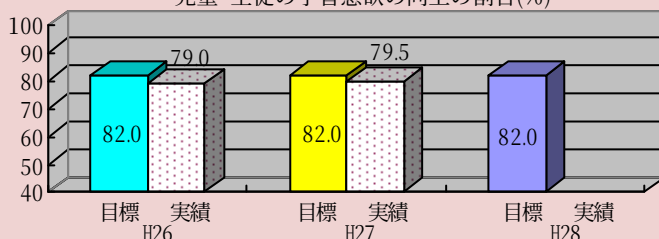
平成27年度実績

実施校 市立小・中学校全 36 校

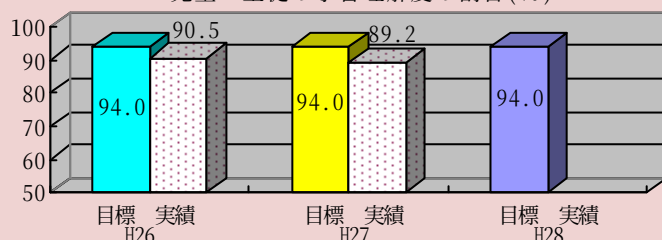
派遣人数 小学校 36 人、中学校 39 人

成果指標

児童・生徒の学習意欲の向上の割合(%)



児童・生徒の学習理解度の割合(%)



成果と課題・今後の取組等

児童・生徒一人一人に学習状況に応じたきめ細かな支援を行うことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び学習意欲の向上が図られました。

今後も、各学校においてきめ細かな支援を行い、個々の状況やニーズに応じて適切な支援を受けられる環境を整備していきます。

委員からの意見

・適切な学習環境の整備支援事業に頭が下がります。予算も高額ですが、地道な支援事業が実を結んでおります。学校評価の場において、管理職も教職員も児童・生徒もこのステップアップ支援員の意義と成果について語られていました。児童・生徒の学力向上のためにこれからも是非継続事業を望みます。

・学カステップアップ支援員が、個別支援に必要な児童・生徒に寄り添うことは、基礎的・基本的な知識や技能の習得の向上や学習意欲の向上につながり、大きな成果を上げています。今後は、小学校中学年への派遣増加を望みます。



事業概要

国際理解の素地を培い、コミュニケーション活動を中心とした英語教育の推進を図るため、市立小・中学校に英語を母国語とする外国語指導助手を配置します。

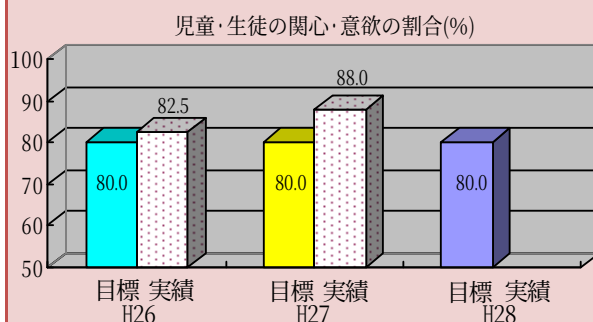
平成27年度実績

配置校 市立小・中学校全 36 校

配置人数 小学校 5 人、中学校 7 人

配置日数 小学校 960 日、中学校 1,172 日

成果指標



成果と課題・今後の取組等

委託業務のため、外国語指導助手への指示は、受託業者を通じて指示を行わなければならない、その場面に応じた柔軟な授業の展開をすることについては課題があります。児童・生徒の授業が円滑かつ効果的に進められるよう、具体的な場面を想定した事前確認など綿密な連絡を行い、学校の指導方針に沿った対応の充実を図ります。

委員からの意見

・小学校教員は免許取得に当たって英語指導法を履修していません。少ない人数ですが英語の免許を持っている教員はいますが、高学年の担任になるとは限りません。そうした状況から、ALT(外国語指導助手)の存在は非常に大きいと考えます。ところが、中学校を含め、業務委託契約のため、担任から ALT への指示内容を直接伝えることはできないことから、現行の契約ではなく ALT が学校と直接やりとりできるようにすべきと考えます。さらに、英語教育推進の視点から ALT がより様々な活動・活躍をしてもらえるようにすべきと考えます。

・高額な予算事業ですが、小・中学校とも、以前とは考えられないくらい通常の学校生活の中に自然な形で英語が浸透しており、成果が出ているのだと思います。何とか受託業者の課題が解消されるような工夫を望みます。

・外国語指導助手の配置は、国際理解の素地を培い、コミュニケーション活動を中心とした英語教育の推進に寄与しています。これから、より必要となる外国語活動を充実させるため、放課後に ALT への指導を可能にするなど委託業者との話し合いを一歩前進してもらいたいです。



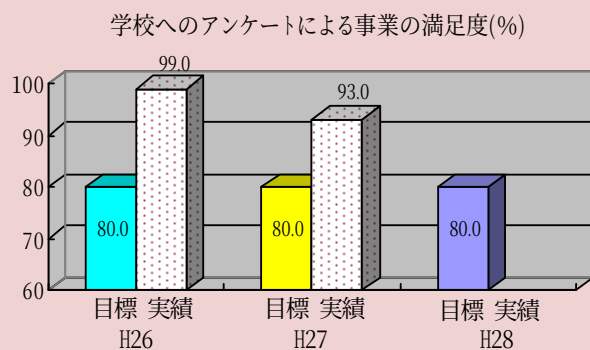
事業概要

確かな学力を身に付けた心豊かで健康な児童・生徒を育成するために、表彰を始め、厚木こども科学賞、理科・科学教育推進のための事業などを実施します。

平成27年度実績

- ・おもしろ理科教室の実施 市立小学校全 23 校(23 回)
※ 3 大学、7 企業の協力を得て実施
- ・こども科学賞の授賞式 12 月 13 日 (日)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

こども科学賞の応募件数が年々増加し、平成 27 年度は開始当初から比べると約 420% 増の 1,080 点となりました。引き続き子どもたちの科学への興味・関心が高められるように取組を継続します。

理科好きの子どもを育成するための「おもしろ理科教室」も平成 27 年度と同様に継続します。

委員からの意見

・この事業における予算がそう多くはない中高い満足度・実績値に驚きます。表彰は図画、工作、習字、おもしろ科学賞、文学、スポーツ、善行など多岐にわたりますが、表彰事業のますますの事業拡大を希望します。

・児童・生徒が更に科学への関心が高まるような取組の継続と、市民の方に対しての周知を強く望みます。

・こども科学賞の応募数が増えていることは、理科好きの子どもが増えていることの表れだと思います。児童・生徒は、自身の取組を評価してもらうことで更に意欲が向上します。また、小学校で行っているおもしろ理科教室では、専門の方の指導により理科・科学への興味が増していて、大変意義深いものであり、継続を望みます。

小学校ICT化推進事業 中学校ICT化推進事業

【教育研究所】



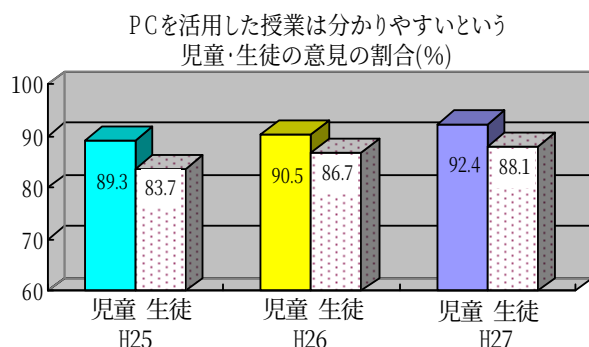
事業概要

ICTを活用した授業を展開し、児童・生徒に学習への興味を持たせ、確かな学力を身に付けさせるとともに、ICTを活用できる教育環境を整備します。

平成27年度実績

- ・ 合計利用時間数 小・中学校 36校 41,522 時間
- ・ 1校平均利用時間数
小学校 1580.3 時間、中学校 562.9 時間

過去3年の実績



委員からの意見

成果と課題・今後の取組等

学校教育の情報化に係る検討委員会において、新たな学校教育に必要とされる情報機器などについて議論されており、今後の機器構成や仕組みづくりをしていくとともに、新たな機器導入の検証を行います。

- ・ 教職員の負担軽減については教育委員会として既に取り組まれています。校務支援システムについても準備を進められていると聞いています。今後も、小・中学校とのニーズの違いはあろうかと思いますが、より良いシステム構築に向けて取組を進めていただきたいと思います。
- ・ ICTの強化により教職員の負担が少しでも軽減されることを期待します。クラウド化の推進は便利である反面、教職員の家庭に仕事を持ち込むことにもなり、今以上にセキュリティ面での対策も必要になると思いますので、十分配慮が必要だと考えます。
- ・ これからますます必要とされる分野です。PCを活用した授業は分かりやすいという児童の意見の割合が小学校で92.4%という実績は興味深いです。タブレットを使用しての授業実績の検証も楽しみです。児童・生徒の進路選択やさらに夢をかなえることに直結する事業であり、どの児童・生徒にも平等に渡りよう拡大継続を望みます。
- ・ この事業には、教職員が大変期待しています。授業へのタブレット導入、分かりやすい授業及びアクティブラーニングにつながる活動です。教職員が児童・生徒と向き合う時間を増すためにも、一刻も早い導入を望みます。

小学校保護者負担軽減事業 中学校保護者負担軽減事業

【学校施設課】



事業概要

保護者の経済的負担の軽減を図るため、小学校においては、図工科、家庭科を中心とした教材などや学級活動、クラブ活動に係る消耗品、備品の経費の一部を、中学校においては、音楽科、美術科、技術・家庭科を中心とした教材などや学級活動、部活動に係る消耗品、備品の一部を公費で負担します。

平成27年度実績

【小学校】

消耗品費 28,180 千円

備品購入費 30 千円

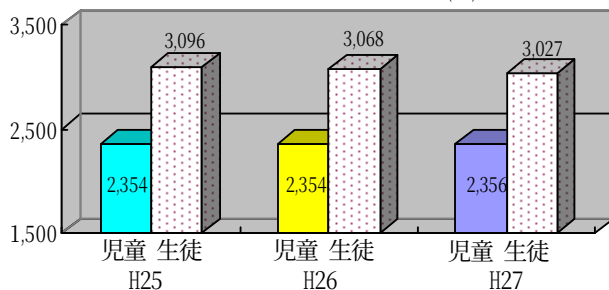
【中学校】

消耗品費 15,660 千円

備品購入費 2,748 千円

過去3年の実績

児童・生徒一人当たり補助額(円)



成果と課題・今後の取組等

保護者が負担する教材教具費のうち、小学校において13.6%、中学校において19.8%を公費で負担することにより、充実した教育活動に資することができました。

今後も、継続して取組を実施していきます。

委員からの意見

- ・市の就学援助に関する事業については毎年書類提出があり受給者も認識していますが、この事業については発信が弱いと感じています。保護者が認識しやすい手立てを望みます。
- ・どの保護者にとっても大変にありがたい事業です。何をどのくらい補助していただいているのか、多くの市民の方により一層のPRを望みます。公費が身近なところで有効に使われていることを知ることができ納税意欲にもつながると思います。
- ・現代は、学習に関与する経済的負担が大きいです。家庭の豊かさによる学力の差がデータで表れており、貧困家庭の子どもを含めて少しでも公費負担をすることはとても価値が高い事業だと思います。未来を担う＝厚木市を支える人材育成のためと考えて今後も続けてほしいと思います。

【基本方針1に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○児童・生徒の確かな学力を身に付ける教育を推進するための事業は、各小・中学校がそれぞれの学校状況にあった事業を展開するために有効に機能していると思います。また、児童・生徒の学習意欲を高め、一人一人に適したきめ細かな指導を行うための人的配置も様々な事業があり、高い効果を上げていると思います。教職員の方に伺ったところ、どの方もととても感謝しているとの声を聞きましたので、今後も更に「確かな学力」の向上に向けて、各小・中学校への人的支援事業の継続強化を図っていただきたいと思います。

○子どもの貧困問題と言われる現代において、基本方針1に掲載してある事業については、今後ますます重要になってくる事業です。今後は、学校だけではなく地域と協働して支援していくことが必要となりますので、教育委員会も他部と連携しながら進めてほしいと思います。

基本方針２ 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育を推進します。

2-①

青少年教育相談事業【青少年教育相談センター】



事業概要

児童・生徒とその保護者などが抱える問題の解決のため、来所相談を始め、相談員の家庭訪問・学校への派遣・配置などによる相談活動を行います。

平成27年度実績

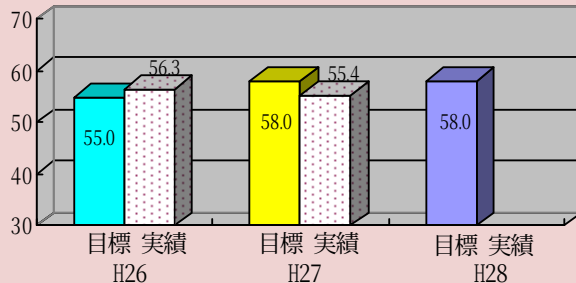
- ・来所相談 4,592 件
- ・電話相談 504 件
- ・家庭訪問相談 597 件
- ・メール相談 3 件
- ・小学校スクールカウンセラー相談 4,164 件
- ・学校コンサルテーション 112 件

※数値は全て延べ数

上記の相談活動を通して、児童・生徒及びその保護者に対する支援を実施しました。

成果指標

継続相談終結率 (%)



※継続相談終結率とは、継続的に来所して相談したケースの中で、その年度内に相談が終了したケースの割合です。

成果と課題・今後の取組等

小・中学校や医療機関などとの連携や学校コンサルテーション事業などの取組が、本人の状態や家庭の環境に適合して問題解決につながりました。

相談内容は年々複雑化・多様化・深刻化しています。福祉的支援を必要とする事案の増加に対して、教育ネットワークコーディネーターを積極的に派遣し、児童・生徒を取り巻く環境の改善に取り組みます。

委員からの意見

・児童・生徒、教職員、保護者が抱えている問題解決に向け大変にありがたい事業です。教育委員会の努力は教職員や保護者に伝わり評価できます。児童・生徒の健全成長のため、児童・生徒や保護者に寄り添いながら専門家と連携した指導をこれからも望みます。

・子どもを育てるに当たり、学校現場のみでできることは全てではありません。特に、家庭の複雑化、社会の急激な変化により、様々な機関との連携が欠かせない中、仲介的な役割を担う青少年教育相談センターの役割は大変大きいものがあります。今後も、充実した活動ができるよう事業の強化を望みます。



事業概要

不登校を未然に防ぐため、毎月実施する学校計画訪問を通して状況把握を行い、課題解決に向けた様々な対策を学校と連携しながら実施します。

平成27年度実績

各種会議・ケース研究会の実施

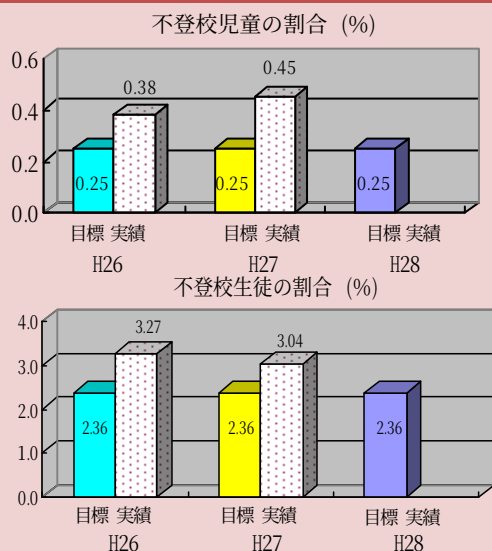
- ・不登校対策推進連絡会議 2回
- ・不登校対策推進実践連絡会議 2回
- ・教育相談コーディネーター連絡会議 4回
- ・学校不適応ケース研究会参加校 16校

学校教育指導員による学校計画訪問の実施 360回

登校支援スーパーバイザーの派遣 18回

児童・生徒支援推進アドバイザーの派遣 25回

成果指標



※不登校児童・生徒の割合は、全児童・生徒総数に占める不登校の児童・生徒数の割合であり、**数値が低いほど不登校が少ない**とされます。

成果と課題・今後の取組等

平成27年度も全小・中学校で不登校対策の重点を決めて取り組む体制を組み、不登校の未然防止の重要性や不登校児童・生徒に対する教職員の理解を深めてきました。今後も、児童・生徒の心の問題に寄り添いながら、不登校の未然防止、早期発見・早期対応に一層努め、更なる不登校の減少を目指して、学校との連携を密に図りながら事業展開を進めていきます。

委員からの意見

・様々な事情を抱えた家庭の中で登校を支援していくことは大変難しいと感じています。平成27年度の実績値が目標値に達していませんが、今後も家庭と学校とをつなぎ、その子どもの不登校が改善されるよう尽力を願います。

・不登校対策は、早期対応、更には未然防止が鍵となります。そのために、教職員だけではなく、様々な場面でともに協力して指導できる人の働きかけが、不登校児童・生徒を増やさず、また登校意欲を増すことにつながります。今後も、児童・生徒の心の問題に寄り添うことのできる人的配置とともに、工夫した事業を続けてほしいと思います。



事業概要

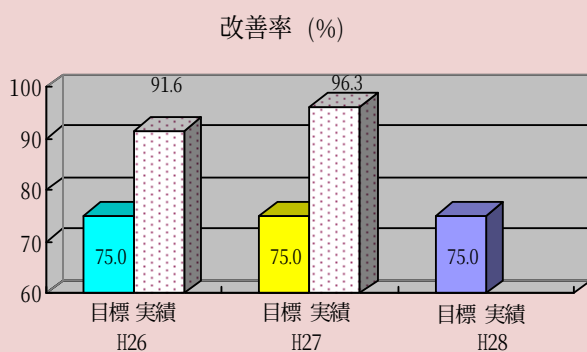
不登校児童・生徒が、小集団での学習や体験活動を通して心の安定を図り、自信を取り戻して学校や社会生活に適応していけるようにするため、個に応じた支援や学習指導を行います。

平成27年度実績

相談指導教室通室生人数 15 人

適応指導ルーム通室生人数 12 人

成果指標



※H26 までは在籍校復帰率を使用

※改善率：適応指導教室での指導により登校できるようになった又は登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった通室生の割合

成果と課題・今後の取組等

二つの適応指導教室の特徴をいかし、対人関係に様々な課題を抱えている不登校児童・生徒に対して、体験的活動を多く取り入れた行事やきめ細かな学習指導、小集団活動などによる適応指導を推進してきた成果として、部分登校などで多くの児童・生徒が学校へ登校ができるようになりました。

課題を抱える児童・生徒や支援級の生徒など、個別対応が必要なケースがあり、学校とより緊密な連携を図り、支援していきます。

委員からの意見

・児童・生徒、教職員、保護者が抱えている問題解決に向け大変にありがたい事業です。教育委員会の努力は教職員や保護者に伝わり、数値で示すとおり大きな成果を上げており、高く評価できます。児童・生徒の健全成長のため、児童・生徒や親に寄り添いながら専門家と連携した指導をこれからも望みます。

・学校に登校できない児童・生徒の居場所としてとても必要なところだと思います。改善率は、96.3%という大変高い実績であり、今後は、遠方の学校に在籍する児童・生徒も入室しやすくなるよう、配慮を望みます。



事業概要

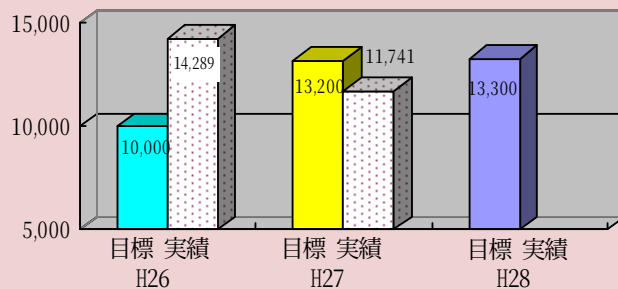
多くの市民の方に郷土の歴史や文化などを伝えるため、郷土資料館で収蔵している資料などを活用し、展示や講座を開催します。

平成27年度実績

多くの市民の方に郷土の歴史や文化などを伝えるため、7回の展示会のほか、郷土資料館で収蔵している資料や知見などを活用し、13講座を52回の講座を実施しました。

成果指標

郷土資料館の利用者数(人)
(郷土資料館特別展示事業を含む)



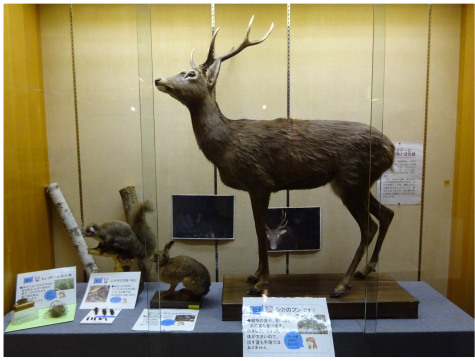
成果と課題・今後の取組等

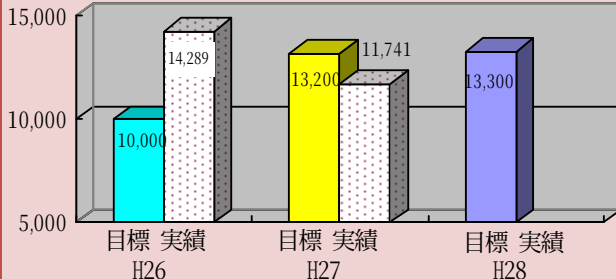
展示会、講座の質を向上させていくには、より効率良く、計画的に行うとともに市民の方のニーズを的確に捉えることが重要です。また、市民協働による展示、講座など市民の方の力をいかした取組も必要となります。

委員からの意見

・来館者人数増加への努力を感じます。厚木市の貴重な宝でもあることから、引き続き来館者数を増やす工夫も大切であり、さらに来館者数以外の評価基準も検討してほしいと思います。郷土資料館の施設の構造上の困難点も考えられますが、限られた広さの中で歴史・文化・動植物・自然ほか幅広い分野の展示があって良いと思います。

・市民の方が築き続けている歴史や文化を大切に残していく資料館はとても大切な場所です。郷土資料館で収蔵している資料や知見等の活用により、13講座計52回開講していることは評価できます。更なるPR活動を続けてほしいと思います。

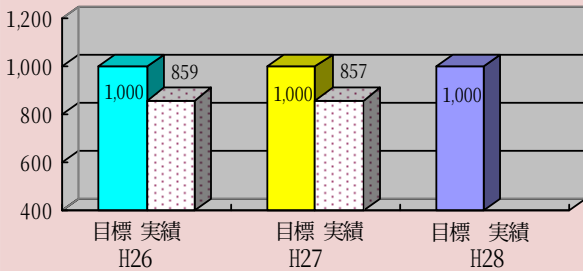
	事業概要
	多くの市民の方に郷土の歴史や文化などを伝えるため、調査や研究などによって得た、歴史・民俗・自然の分野に関する資料を展示します。
	平成27年度実績 「あつぎの草木・花めぐり」(11月～12月)を実施しました。市民の方が厚木で見ることができる身近な植物、貴重な植物について紹介、解説することで、郷土の植物や自然に対する理解を深めました。

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
郷土資料館の利用者数(人) (郷土資料館活動推進事業を含む)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>10,000</td><td>14,289</td></tr><tr><td>H27</td><td>13,200</td><td>11,741</td></tr><tr><td>H28</td><td>13,300</td><td>13,300</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H26	10,000	14,289	H27	13,200	11,741	H28	13,300	13,300	展示見学者、連続講演会参加者には毎回、アンケートを行っており、感想、ニーズを確認しています。展示内容を補う関連講座を4回開催いたしましたが、植物と昆虫に関する講演会、初心者の方の植物同定会への参加を促す「鑑定団」など多くの市民が楽しめるものとなりました。見学者数を増やすため、PR方法など更なる検討を行います。
年度	目標	実績											
H26	10,000	14,289											
H27	13,200	11,741											
H28	13,300	13,300											

委員からの意見

・展示内容は、展示見学者、連続講演参加者へのアンケートの観光・ニーズを取り入れ、参加型展示会の要素も増え、質が高い内容となっていると思います。残念ながら、目標達成率の減少が見られるので、PRを積極的・効果的に進めることを望みます。

	<table><tr><th data-bbox="686 145 1370 206">事業概要</th></tr><tr><td data-bbox="686 206 1370 425">乳幼児の言葉と心を育むため、0歳児の保護者の方に、絵本やブックリストを手渡ししながら、乳幼児と周りの大人が触れ合うことの大切さや楽しさを伝えます。</td></tr><tr><th data-bbox="686 425 1370 486">平成27年度実績</th></tr><tr><td data-bbox="686 486 1370 786">実施回数 44回 参加人数 857人 実施場所 中央図書館・移動子育てサロン・公民館 保健センター・アミューあつぎ8F 屋内広場 イトーヨーカドー</td></tr></table>	事業概要	乳幼児の言葉と心を育むため、0歳児の保護者の方に、絵本やブックリストを手渡ししながら、乳幼児と周りの大人が触れ合うことの大切さや楽しさを伝えます。	平成27年度実績	実施回数 44回 参加人数 857人 実施場所 中央図書館・移動子育てサロン・公民館 保健センター・アミューあつぎ8F 屋内広場 イトーヨーカドー
事業概要					
乳幼児の言葉と心を育むため、0歳児の保護者の方に、絵本やブックリストを手渡ししながら、乳幼児と周りの大人が触れ合うことの大切さや楽しさを伝えます。					
平成27年度実績					
実施回数 44回 参加人数 857人 実施場所 中央図書館・移動子育てサロン・公民館 保健センター・アミューあつぎ8F 屋内広場 イトーヨーカドー					

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
参加した乳幼児の人数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>1,000</td><td>859</td></tr><tr><td>H27</td><td>1,000</td><td>857</td></tr><tr><td>H28</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H26	1,000	859	H27	1,000	857	H28	1,000	1,000	様々な場所での開催により、平成 26 年度に増加した参加者数を維持することができました。 平成 28 年度は、こうした開催場所に加えて、毎月第 4 土曜日に中央図書館で定期開催することにより、更なる参加者増を目指します。
年度	目標	実績											
H26	1,000	859											
H27	1,000	857											
H28	1,000	1,000											

委員からの意見

- ・重要な事業と認識して、平成27年度は移動子育てサロンとタイアップして実施したアイデアは素晴らしいと感じています。こうした取組が着実に読書や家庭教育につながっていくと信じています。
- ・公民館のほか児童館でも未就園の乳幼児が親子で集っていて、児童館の指導員の方が親子に向け絵本の読み聞かせを継続的に行っていることもあり、取組の成果が上がっていると感じますので、継続を期待します。
- ・乳幼児期の心や言葉を育むために行っているこの事業は価値が高いと感じます。本に対する知識が豊富な専門家の選んだ絵本やブックリストにより、保護者にとっても宝物となるでしょう。公共の施設以外の場所でも開催を広げていて、評価できます。今後も実施場所や回数の検討をしてほしいと思います。

事業概要

「読書大好きあつぎっ子」を育成するため、「あつぎ家庭読書の日」（毎月第3水曜日）を中心に、家庭での読み聞かせや親子読書活動の必要性について、より一層の周知に努めます。

また、「周知・啓発パンフレット」や推薦図書リストの配布とともに読書ボランティアへの支援と連携を進めます。

平成27年度実績

おはなし会、おひざにだっこのおはなし会、小学校への出前おはなし会、絵本ライブ、図書館クイズラリーなど様々な行事を開催し、子ども読書活動のきっかけづくりに努めるとともに、読書ボランティアの育成・支援のため、読み聞かせ講座を開催しました。

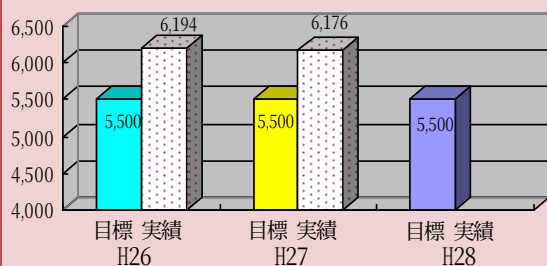
小学生及び中・高校生を対象とした推薦図書案内を作成・配布したほか、新たに、幼稚園や保育園などを通じて、「厚木の子どもたちに手渡す100冊の絵本」リストや保護者向け子ども読書活動啓発パンフレットや読書通帳を配布しました。

市民課などと協働して、市役所1階フロアにリサイクルの児童書を置き、自由に閲覧や持ち帰りいただくことができるようにしました。



成果指標

事業への参加者数(人)



成果と課題・今後の取組等

子どもや保護者を対象とした読書のきっかけづくりとなる諸行事及びボランティア育成のための講座を実施し、多数参加いただきました。

今後も、絵本ライブや図書館クイズラリー、おひざにだっこのおはなし会など、様々な行事を開催し、子ども読書活動のきっかけづくりに努めます。

なお、幼児・小学生・中学生など対象別の推薦図書リストや読書通帳の配布による保護者や子どもへの啓発活動を行うとともに、読み聞かせ講座の開催やワークショップなどを通じて、読書ボランティアの育成・支援を実施します。

委員からの意見

・「読書大好きあつぎっ子」の育成のため、パンフレットや読書通帳の配布が積極的に行われ、効果を上げています。今後も、子どもたちの関心を増す工夫が必要と思われます。また、学校図書館との連携を更に強め、読書活動を更に推進していただくことを望みます。



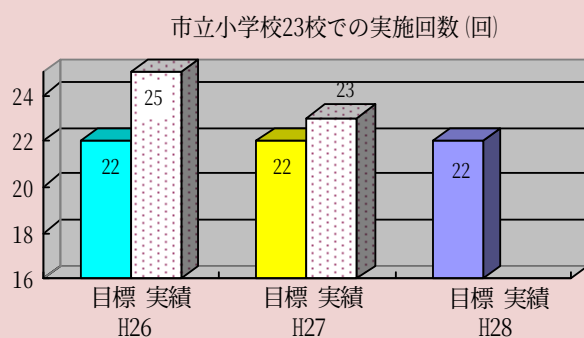
事業概要

児童・生徒の食育に対する関心を高めるため、市立小学校の給食において月2回、中学校の給食においては月1回程度「パクパクあつぎ産デー」として、地元の農産物を給食に使用します。

平成27年度実績

小学校給食については、天候により実施できない場合もありましたが、実施できるときに多く実施することにより、おおむね月2回を達成できました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

小学校給食については、パクパクあつぎ産デーが定着し、月2回の実施ができています。さらに、中学校についても、月1回実施できるように計画的な作付けをして取り組みます。

また、パクパクあつぎ産デー以外にも、積極的に地場農産物を取り入れた給食を提供します。

委員からの意見

・地場農産物の使用と食育の関連で重要な事業であり、多くの工夫努力の様子が感じ取れます。また、小学校は自校給食がかなう幸せな地区であり、学校農園で自分たちが育て収穫した食材や厚木市農協を通して得た食材も使用することができ、身近な入手方法のため勤労から得ることができた食材に対する感謝するきっかけにもつながります。さらに、自校給食は弾力的な献立を作成することもでき、厚木市や各都道府県の郷土料理、世界のメニューなどバラエティー豊かな給食献立が可能となります。毎日の楽しみな給食を重点に置きながら、食育の重要性を教育するこの事業を継続し、更なる発展を期待しています。

・地域との関わりも追想される事業だと思います。生産者の顔が分かる児童・生徒もいて、地域で学校教育に関わることができる素晴らしい事業だと思います。

・学校給食法などの改定を受けて、学校給食の目的が食育の推進を重視するものとなりました。児童・生徒の食育の関心を高めるため、パクパクあつぎ産デーを設けていますが、少しずつ定着してきていると思います。今後は、成果を上げるために、児童・生徒だけではなく、教職員への研修や保護者への周知を徹底していく必要があると思います。

【基本方針2に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○児童・生徒、教職員、保護者が抱えている課題は多岐にわたる中、不登校対策に関する教育委員会の取組は大きな成果を上げており、高く評価できます。今後も児童・生徒の健全成長のため、保護者にも寄り添いながら専門家と連携した指導をこれからも望みます。

○郷土資料館などを活用した郷土の歴史や文化の取組について多くの講座を開講し、参加者数の増加への努力を感じます。今後は、ニーズを的確に捉え積極的にPRを進めより多くの方に参加してもらえるような取組を期待します。

○子どもの読書に関する事業について、ブックスタートを民間施設で開催するなど乳幼児が本に触れ合う機会を積極的に増やし、取組の成果が上がっていると感じますので、継続を期待します。

基本方針3 教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進します。

3-①

教職員研修事業【学校教育課】



事業概要

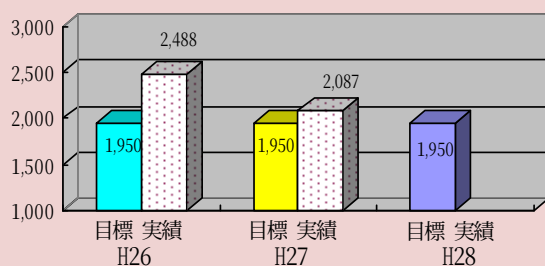
教職員としての専門性や資質能力の向上を図り、児童・生徒や保護者、地域から更に信頼されるよう、学校経営及び教育課程などの各種研修会を開催します。

平成27年度実績

研修参加者数 1,435 人（28 研修講座）
研究会参加者数 652 人（8 研究会）

成果指標

教職員研修・研究会参加者数（人）



成果と課題・今後の取組等

研修及び研究会は、それぞれの目的に沿ったテーマを設定し実施することができました。

今後も、教職員としての専門性や資質能力の向上を図り、児童・生徒や保護者、地域から更に信頼されるように事業を推進します。

委員からの意見

・研修・研究は教職員の指導力向上に役立っています。幅広い分野の研修があり教育委員会の努力が見えています。教職員の資質及び力量向上のために今後も継続し、更に工夫した内容での推進を望みます。内容として既に事業化されているのかもしれませんが、管理職の危機管理能力育成のための研修、学校職員チーム力の育成方法、学級経営のノウハウ、教職員のストレス回避方法の研修、児童・生徒の人間関係育成方法の研修などいろいろな視点から広く教職員が参加できる方法の工夫など検討いただくことを望みます。

・教職員の成長は、児童・生徒の成長であり地域の成長であると思います。意義ある研修になるように願っています。

・教職員としての専門性や資質能力の向上を図るため、様々な研修会・研究会を開催して、多くの教職員が技術向上につなげることができています。参加している教職員からの研修会への評価も高いところです。更に参加者が多くなるように開催時間や方法について検討願います。



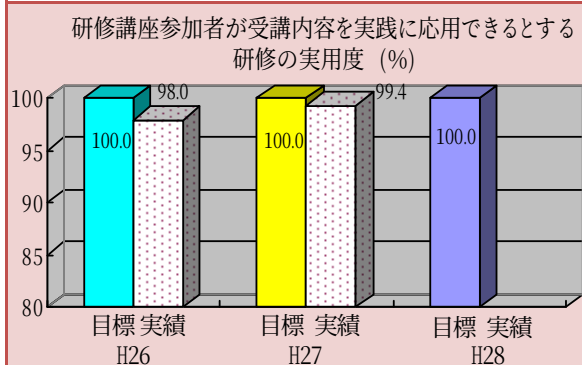
事業概要

教職員の指導力向上を支援するため、教育課題研修や教科指導研修、ICT活用研修などの各講座や、初任者研修、教育研究発表会・教育講演会を開催します。

平成27年度実績

各種研修講座(希望制)など開催数 20回
参加教職員数 617人(延べ1,177人)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育研究発表会や各種の希望制研修などにより、教職員の意欲や資質・指導力の向上を図りました。経験年数にかかわらず、若手とベテランが学校間を越えた専門的な課題などを共に学び合う場合は、とても活気があります。

今後も、教育課題への先進的な取組や参加率の向上を目指し、充実した事業を推進します。

委員からの意見

- ・教職員の研修はとても大切なことであると思われます。教職員のレベルアップは教育向上の基礎になることですので更なる推進を希望します。
- ・研修・研究は教職員の指導力向上に役立っています。幅広い分野の研修があり教育委員会の努力が見えています。教職員の資質及び力量向上のために今後も継続し、更に工夫した内容での推進を望みます。内容として既に事業化されているのかもしれませんが、管理職の危機管理能力育成のための研修、学校職員チーム力の育成方法、学級経営のノウハウ、教職員のストレス回避方法の研修、児童・生徒の人間関係育成方法の研修などいろいろな視点から広く教職員が参加できる方法の工夫など検討いただくことを望みます。
- ・教職員の意欲や資質、指導上の向上を図るために、教育研究発表会のほか20回の各種研修講座を開催しています。参加した職員の99%が実践に応用できるということで、大変価値の高い事業です。今後も教育課題や教育改革に関する研修会を増やし、参加実数を増やす工夫を望みます。



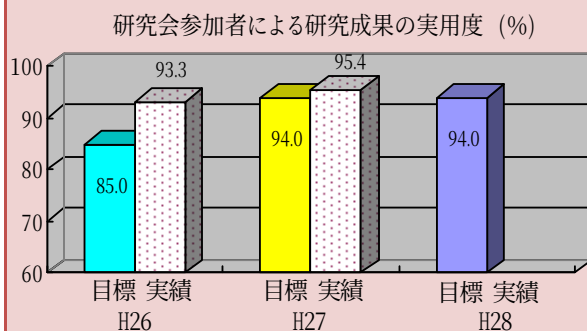
事業概要

教育の新たな動向や今日的な課題に対応するため、教職員や市民の方などで構成する研究部会をテーマごとに設け、毎月1回部会を開き、課題解決に向けての調査研究や、教材・資料の作成を行います。

平成27年度実績

教育調査研究部会 3部会設置・運営
部会開催延べ回数 37回(3部会合計)
研究に携わった教職員・市民 19人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育の場における様々な課題や新たな教育の動向について、具体的な方策を提起しました。

今後も、今日的課題などについて研究を積み重ね、研究成果を発信し、教職員の資質・指導力の向上を図るため、事業を推進します。

委員からの意見

・研修・研究は教職員の指導力向上に役立っています。幅広い分野の研修があり教育委員会の努力が見えています。教職員の資質及び力量向上のために今後も継続し、更に工夫した内容での推進を望みます。内容として既に事業化されているのかもしれませんが、管理職の危機管理能力育成のための研修、学校職員チーム力の育成方法、学級経営のノウハウ、教職員のストレス回避方法の研修、児童・生徒の人間関係育成方法の研修などいろいろな視点から広く教職員が参加できる方法の工夫など検討いただくことを望みます。

・本部会策定による教育の場における様々な課題や新たな教育の動向についての方策が、学校現場にとって大切な指針となっています。今後も続けてほしいと思います。

	事業概要
	家庭・学校・地域社会における教育を支援するため、児童・生徒用の教材や研究紀要などを作成・提供し、教職員の実践をまとめた教育実践記録集の発行や、教育に関する資料の収集・提供を行います。
	平成27年度実績
・小学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・中学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・研究紀要 90・91 集 各 900 部発行 ・教育実践記録集 42 集 300 部発行	

成果と課題・今後の取組等

小・中学校社会科副読本の修正増刷を始め、日々の教育活動に効果的に活用できる教材、資料等の作成・収集・提供を行いました。

今後も、教職員の資質・指導力の向上を図るため、様々な教育的ニーズや今日的課題について研究成果を発信していきます。

委員からの意見

・子どもに直接いかすことができる教材指針として、優れた読み物や記録などを提供しています。教職員が個人として収集・確保できる資料は限られているので、更に充実した資料の提供を望みます。

【基本方針3に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進するためには、職員の研修はとても大切なことであり、教職員が成長することは教育の向上になるとともに児童・生徒の成長や地域の成長にもつながります。今後も現代における課題などについて幅広い視点からテーマ等を研究し、多くの教職員が参加できるような意義ある研修となるように更なる推進を希望します。

基本方針４ 課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。

4-①

中学校校舎・体育館改修事業 【学校施設課】



事業概要

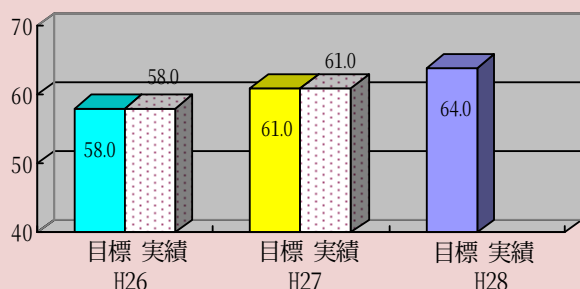
生徒が安全で快適な教育環境の中で学校生活を送れるよう、校舎の外壁・屋上やトイレなどの改修工事を実施します。

平成27年度実績

藤塚中学校北棟校舎屋上及びトイレの改修工事を実施しました。

成果指標

トイレの改修率 (%)



成果と課題・今後の取組等

安全で快適な施設環境が確保できました。
今後も計画的に改修工事を実施します。

委員からの意見

- ・ どの学校も快適なトイレになっています。見えないところにも児童・生徒のために事業を実施してもらい評価します。
- ・ 効果的な学習活動を進めるために、最低限必要な改修工事だと認識しています。予算は膨大ですが、児童・生徒の安全を確保するために診断とともに適切に事業を推進してもらいたいと思います。



事業概要

快適な学習環境の整備を図るため、市立小学校の教室に冷暖房設備を設置します。

平成27年度実績

【冷暖房設備設置校】 厚木小、依知南小、北小
三田小、清水小、南毛利小
毛利台小、飯山小

成果と課題・今後の取組等

快適な学習環境の整備が図られました。
今後は、未設置校9校への設置を進めます。

委員からの意見

- ・新聞などによると、学校の冷暖房工事の実施を住民投票に委ね、否決されたという自治体もありました。児童・生徒の健康面などを考え全小・中学校に設置する厚木市と教育委員会の英断に心から感謝します。
- ・学校現場での要望を取り入れながら今後も計画的に着実に推進してほしいと思います。
- ・実際に設置された学校からは、夏休みの補充学習あるいはPTA活動に利用でき、快適であったとの報告もありました。ここ最近、暑さが厳しくなっていることから児童・生徒の健康面、学習効果の面から活躍することは間違いなく、今後の成果に期待したいと思います。



事業概要

児童の快適な教育環境の確保を図るため、施設整備を要する校舎などの整備を実施します。

平成27年度実績

平成26年度末に実施した埋蔵文化財の試掘調査により、更に調査が必要とされたことから、引き続き本調査を実施しました。

成果と課題・今後の取組等

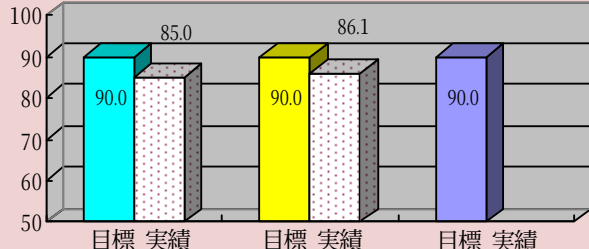
本調査に8ヶ月を要したことから、学校等との調整を重ね、今後の整備計画を1年間繰り延べて進めることとしました。

今後も、整備計画に基づいて着実に進めます。

委員からの意見

・埋蔵文化財を教材にした学習活動を行うなど、校舎の整備を効果的に活用しています。今後も、児童・生徒の学習や安全面に支障のないように環境整備の維持を望みます。

	事業概要 児童・生徒が安心して登下校できるようにするため、防犯ブザーの配布や学童通学誘導員の配置などを行います。 平成27年度実績 ・学童通学誘導員の配置 市内通学路8か所 ・防犯ブザーの配布 4,210 個 ・児童の防犯ブザー携帯率 86.1% ・通学路注意看板の設置 17 枚
---	--

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
児童の防犯ブザー携帯率（％）  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>90.0</td><td>85.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>90.0</td><td>86.1</td></tr><tr><td>H28</td><td>90.0</td><td>90.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H26	90.0	85.0	H27	90.0	86.1	H28	90.0	90.0	学童通学誘導員については、市内小学校通学路計8か所に配置し、防犯ブザーについては、ケータイSOSネットでの呼び掛けや、学校を通じた指導などの対策を講じて携帯率を向上させていきます。
年度	目標	実績											
H26	90.0	85.0											
H27	90.0	86.1											
H28	90.0	90.0											

委員からの意見

- ・登下校の安全対策のために、毎日、嵐の日や雪の日でも子どもたちを守ってくださる大勢の見守り隊の方に感謝しています。
- ・不審者や交通事故などによる子どものトラブルは、年々増加傾向にあります。また、保護者の安全への意識もマスコミ報道増加とともに高くなっています。両者の心理的不安を取り除き、気持ちよく学校へ登校できるよう誘導員の配置などについて、更に充実してほしいと思います。

4-⑤⑥

要保護及び準要保護児童就学援助事業(小学校)

要保護及び準要保護生徒就学援助事業(中学校)

【学校教育課】



事業概要

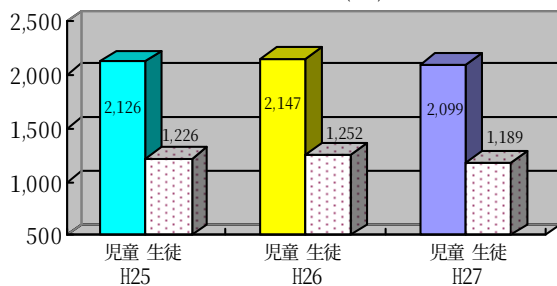
教育の機会均等を図るため、経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給します。

平成27年度実績

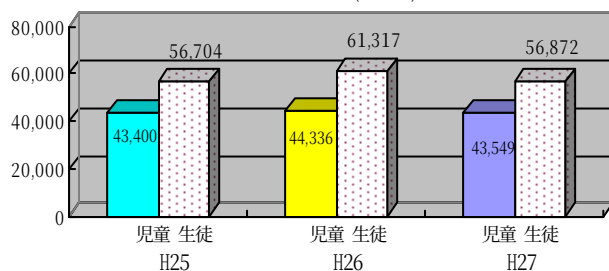
【小学校】支給者数	準要保護者	2,006 人
	要保護者	93 人
	支給額	43,548,730 円
【中学校】支給者数	準要保護者	1,138 人
	要保護者	51 人
	支給額	56,871,978 円

過去3年の実績

支給者数 (人)



支給額 (千円)



委員からの意見

- ・3,300 人もの児童・生徒がこの事業の支援によって救われていることが分かります。有意義な事業であり、今後も継続して実施を望みます。
- ・経済的な理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、適切かつ効果的な支援がなされています。年々、貧困家庭の増加が認められており、該当家庭への支援を継続していくことは、児童・生徒の幸せのみならず厚木市の学力水準を高めることにもつながると思います。また、援助を受けている家庭について、支給された経費がしっかりと児童・生徒のために使われるよう指導を望みます。

成果と課題・今後の取組等

経済的な理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、学用品費などを支給することにより、教育の機会均等を図ることができました。

今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

小学校特別支援学級等就学奨励事業 中学校特別支援学級就学奨励事業

【学校教育課】



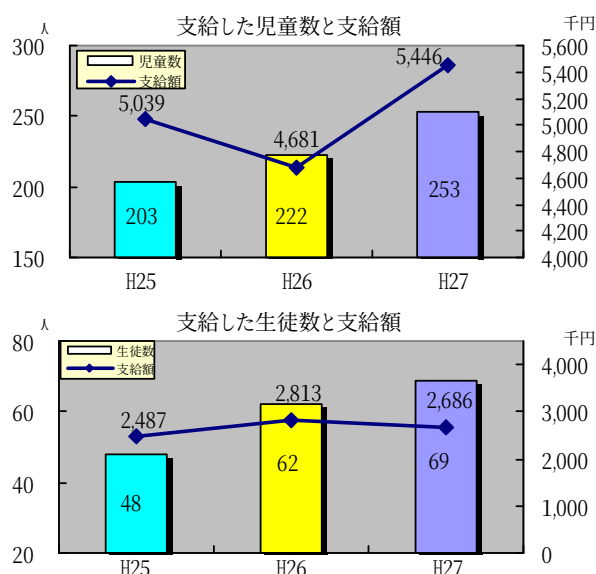
事業概要

教育の機会均等を図るため、特別支援学級などに就学する児童・生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給します。

平成27年度実績

特別支援学級通級者(児童)	193 人
特別支援学級通級者(生徒)	69 人
ことばの教室通級者	60 人
支給額(児童)	5,446,333 円
支給額(生徒)	2,686,023 円

過去3年の実績



成果と課題・今後の取組等

保護者の経済的負担が軽減できたとともに、教育環境の水準を維持できたと考えます。

また、今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

- ・所属する学校の特別支援学級や学区外へ通級する児童・生徒の保護者に対して、教育的ニーズと経済的に支援をする事業は心の支援にも通じており大変に意義のある事業です。支援児童・生徒は増加の傾向がありますがこれからも継続してほしい事業です。
- ・特別支援学級に在籍する児童・生徒がいる家庭は、他の家庭より子育てにかかる費用がかさむと考えられます。学用品などの経費を支給することで、適切に支援ができていると思います。引き続き、経済的支援を望みます。

	事業概要				
	特別な支援を必要とする児童・生徒の適切な就学相談、就学指導を行うため、「厚木市心身障害児就学指導委員会」を運営し、特別支援教育の充実を図ります。				
	平成27年度実績				
<table border="0"> <tr> <td>就学相談</td> <td>年間 4 回</td> </tr> <tr> <td>就学指導委員会</td> <td>年間 5 回</td> </tr> </table>		就学相談	年間 4 回	就学指導委員会	年間 5 回
就学相談	年間 4 回				
就学指導委員会	年間 5 回				

成果と課題・今後の取組等

就学相談及び心身障害児就学指導委員会を開催し、特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人の障がいの種類や程度、能力、適性などを的確に判断し、保護者の意見や、教育・医学・心理学などの専門的な見地からの意見を踏まえ、きめ細かな就学相談・就学指導を実施しました。

今後も、各学校において特別な支援を必要とする児童・生徒が増加していく中で、個々の状況やニーズに応じて適切な指導を受けられる環境を整備するため、事業を継続していきます。

委員からの意見

- ・所属する学校の特別支援学級や学区外へ通級する児童・生徒の保護者に対して、教育的ニーズと経済的に支援をする事業は心の支援にも通じていて、大変に意義のある事業です。支援児童・生徒は増加の傾向がありますが、これからも継続してほしい事業です。
- ・特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人一人の障害の程度や能力適性などをしっかりと判断し、きめ細かな就学相談を行っており、当該家庭からも信頼されています。就学相談が必要な児童・生徒が年々増えていますが、適切に運営できることを望みます。

特別支援教育推進事業【学校教育課】



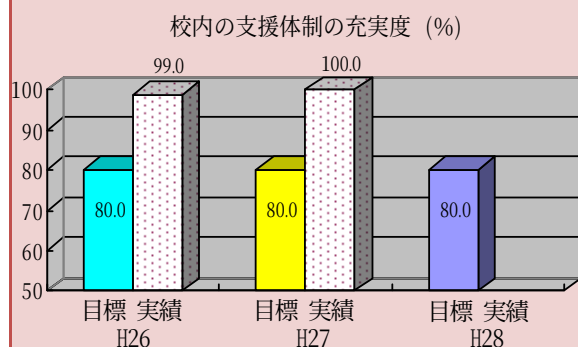
事業概要

特別な支援を必要とする児童・生徒に対して適切な支援・指導などの充実を図るため、総合的な支援体制を整備します。

平成27年度実績

学校教育指導員派遣回数 40 回
 特別支援教育介助員派遣人数 85 人
 (市立小・中学校 29 校)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

児童・生徒一人一人の教育的ニーズに沿った適切な教育環境を整えていくことが課題です。学校教育指導員は、特別支援学級の指導や、校内支援体制の充実のために、指導・助言を行いました。

特別支援教育介助員の確保による校内支援体制の充実を図るため、現在の介助員への継続依頼に加え、市のホームページなどを活用するなど人材の確保に努めます。

委員からの意見

- ・ 特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、介助員が寄り添うことで、児童・生徒は落ち着いた生活を送ることができ健全に発達しています。今後も充実した事業を推進してほしいと思います。
- ・ 実績値が 100%というのは校内の支援体制が充実されていて高く評価できます。今後も支援体制の継続を望みます。



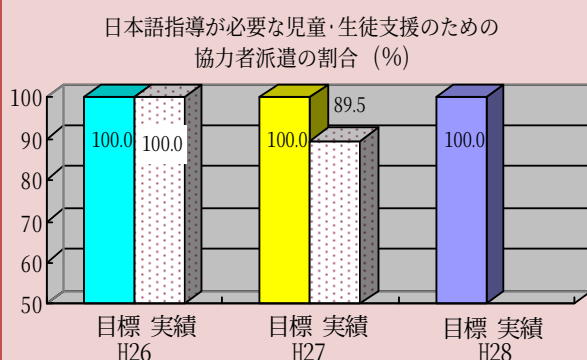
事業概要

日本語が理解できず学校生活に支障をきたす外国籍児童・生徒及び帰国児童・生徒に対し、母国語等の話せる日本語指導協力者を派遣するとともに、外国籍児童・生徒が多く在籍する学校で、放課後などを利用し、日本語の習得や学習補助を目的とした補習教室を開設するための支援員を派遣します。

平成27年度実績

派遣校 市立小学校 15 校、中学校 6 校
派遣人数 22 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

年々、外国籍児童・生徒が増加しており、その中には全く日本語を読む、書く、話すができない児童・生徒も少なくありません。また同じ言語の児童・生徒が複数の学校へ在籍しているため、人材の確保が難しい状況です。

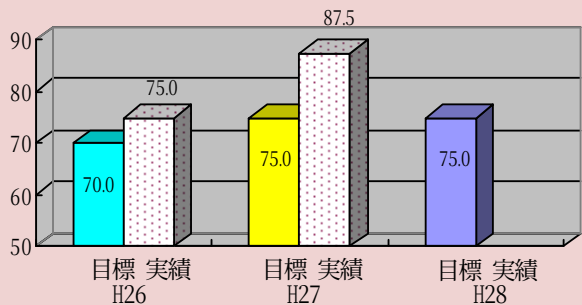
現状を踏まえ、より詳細な外国籍児童・生徒の学習状況の把握に努め、適正な配置ができるよう進めていきます。

委員からの意見

・日本に来ている外国籍児童・生徒の中には、全く日本語が話せない者もありますが、日本語指導協力者の存在は、児童・生徒のみならず一家の生きていくための支えにもなっています。児童・生徒が元気で通学していれば保護者も元気になるれます。外国籍児童・生徒は増加傾向があり、人材確保の苦勞も多いと思いますが、協力者の確保を強く望みます。

・日常生活さえも不便のある外国籍の児童・生徒に対して母国語の指導を専門の職員に頼み、生活に支障のない状況にまで引き上げていることは評価できます。同様に、日本語が不自由な保護者との関わりも行っていて、大きな成果を上げています。今後も学校運営にプラスとなる、より多くの人材確保を望みます。

	事業概要 児童・生徒の問題行動に対し、関係機関などと連携してプロジェクトチームを組織し、一人一人に適した対応を図るとともに、定期的に学校訪問を行い、必要な情報を収集し、問題行動未然防止の観点から、管理職や児童・生徒指導担当教員に対し、組織的かつ効果的な児童・生徒指導について助言します。 平成27年度実績 市立小・中学校への定期訪問（年2回程度） プロジェクト会議 年5回開催
---	--

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
問題行動が解消・改善した割合（％）  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>70.0</td><td>75.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>75.0</td><td>87.5</td></tr><tr><td>H28</td><td>75.0</td><td>75.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H26	70.0	75.0	H27	75.0	87.5	H28	75.0	75.0	学校だけの対応によって解決することが困難な事案について、警察や児童相談所といった外部機関との連携を深めることによって、児童・生徒が様々な立場から支援・指導を受けることができるように努めています。 また、問題行動の未然防止、早期発見・対応ができるように、定期的な学校訪問において、学校の状況に応じた指導助言を継続していきます。
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H26	70.0	75.0											
H27	75.0	87.5											
H28	75.0	75.0											

委員からの意見

- ・ この事業における問題行動の解消・改善の実績が向上しています。専門家と連携した取組によって改善した成功例から、その方法をシェアできればと思います。今後もより良い解決ができるように努めてほしいと思います。
- ・ 多様化する家庭環境に、定期的な家庭訪問や関係機関からの適切な指導を早期に行うことで、いじめや不登校などの早期発見や未然防止につながっています。今後も、更に手厚い支援ができるよう事業の強化を望みます。



事業概要

中心市街地の公共施設再配置計画に基づき、厚木南公民館の新築移転に向けた基本・実施設計及び建設予定地である勤労福祉センターの解体を実施します。

平成27年度実績

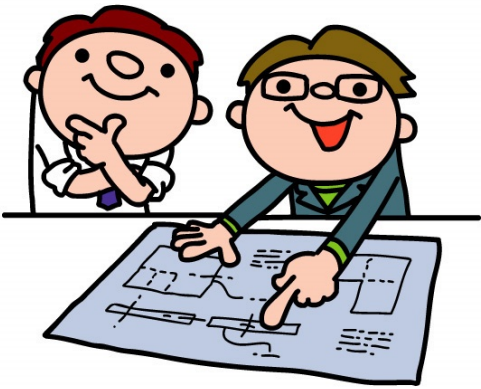
新築整備に向け、基本・実施設計を実施しました。

成果と課題・今後の取組等

平成27年度をもって事業が終了しました。なお、厚木南公民館新築事業として、引き続き本体工事を実施してまいります。

委員からの意見

・計画どおりの平成28年度完成を楽しみにしています。

	事業概要
	中心市街地の公共施設再配置計画に基づき、厚木南公民館の新築移転に向け、山留・杭工事、工事監理委託、新築工事を実施します。
	平成27年度実績
	新築整備に向け、山留・杭工事及び本体工事を実施しました。

成果と課題・今後の取組等

引き続き本体工事を実施し、併せて、周辺道路を整備するとともに、開館に必要な設備の設置を行います。

委員からの意見

・立地条件がよく、以前あった施設の認知度も高いので、住民のニーズに即した様々な活動が期待されます。平成29年度の運用に向け、住民への早めの周知活動をお願いしたいと思います。

【基本方針4に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図るために、学校の校舎などの改修や冷暖房設備の設置を実施するとともに教育の機会均等や特別な支援を必要とする児童・生徒、外国籍の児童・生徒などに対するきめ細かな支援がされています。今後も、学校現場での要望を取り入れながら計画的に着実に推進してほしいと思います。

○平成 28 年度からということですが、学校現場等で発生する諸課題に対する法的観点からの助言・指導等を行う法曹資格を有する職員が配属されるとのことで、学校が抱える課題等は様々ありますので助言・指導を受けることができることは非常にありがたいことだと思います。